国際ビジネスコミュニケーション学会

Japan Business Communication Association, February 2013

関西支部

2013年度 第1回 支部例会 プログラム

【 日 時 】 2013年2月17日(日曜日) 13:00 ~ 15:45

【会場】

関西学院大学 大阪梅田キャンパス(KGハブスクエア大阪) 1005 教室

Conference Program

13:00~13:10 関西支部 支部長 挨拶

Alex M. Hayashi (常磐会学園大学)

13:10~14:10 オープニング講演

The EU's contribution to peace and reconciliation in Europe

- Francis Rawlinson 氏

14:25~15:05 研究発表

ボードゲームの交渉術教育ツールとしてのポテンシャリティ

- 吉川英一郎 会員(同志社大学 商学部)
- 植田幹浩 (日本モノポリー協会)

15:15~15:45 関西支部 総会

Opening Lecture 13:10 ~ 14:10

■ 講演者

Francis Rawlinson 氏

関西学院大学 経済学部 Visiting Professor (a former EU Commission official)

■演題

The EU's contribution to peace and reconciliation in Europe

■要旨

The first efforts to unify Europe in the immediate aftermath of World War II were motivated by the desire to

reconcile former enemies and prevent further conflict. The political dimension has remained uppermost in all the subsequent expansions of European cooperation. Democracy, human rights, protection of minorities, and reconciliation of ethnically and religiously divided peoples have been even more important a condition of membership of the European Union than have free trade and competition and a market economy system.

This contribution to peace and reconciliation in Europe going back over 60 years has been recognized in the award of the 2012 Nobel Peace Prize to the European Union. The timing was apt. The Prize was awarded at the very time when European leaders most needed encouragement to continue their struggle to resolve the problems of the most advanced stage of European cooperation so far, the single currency, a struggle in which they now finally seem to be winning.

The speaker will trace the motives for the first treaties, the principles applied in admitting new members, and the continuing efforts of the EU to resolve disputes and uphold democracy, human rights, tolerance and press freedom in member countries old and new. He will also look at the nascent diplomatic efforts of the EU on the world stage in support of these same principles.

(講演 45 分間、質疑応答 15 分間)

Presentation 14:25 ~ 15:05

■ 研究発表 14:25 - 15:05 (発表 30 分間、質疑応答 10 分間)

ボードゲームの交渉術教育ツールとしてのポテンシャリティ

吉川英一郎 会員 (同志社大学 商学部) 植田幹浩 (日本モノポリー協会)

1. 報告の趣旨

本研究は、交渉教育の提案を試みるものである。交渉力養成のツールとして、市販のボードゲーム"Monopoly"を活用する。ボードゲームの交渉局面における疑似体験を通じて、青少年の「交渉」への関心を高め、初歩的交渉力を涵養することができることを示し、その活用を提案する。

社会においては、紛争・摩擦・対立を力によって解決するのではなく、交渉により、Win-Win の合意を形成することが重要であるとされる。交渉力の養成は少年少女期から時間をかけて行うべきであろうが、交渉力の養成は、主に体験を通して行われる。日本における少年少女期の教育は知識習得が中心で、労働経験・社会経験の推奨はそれほど行われていない。つまり、交渉経験を実生活で得る機会はそれほど多くない。交渉を問題解決に有効に用いるという体験を少年少女にさせる簡易な方法はないだろうか。

市販のボードゲーム"Monopoly"は、「不動産を扱う人生ゲームのようなゲーム」として、世間では認識されていて、 交渉の要素が強いことは必ずしもよく認識されていない。報告者は、このボードゲームが、交渉が非常に重要な要素 のゲームであることを良く知る。

交渉力養成のツールとして、モノポリーが有用であり、また、その有用性が広報可能であるならば、少年少女期の交渉力教育に広く用いることができる。

- 2. 実戦型ボードゲーム「モノポリー」の概要
- 3. ハーバード流交渉術から進展する交渉理論:分配型交渉術から統合的交渉術へ
- 4. ゲームにおける交渉理論の疑似体験の有用性
- 5. モノポリーとアサーティブコミュニケーション モノポリーで体験できること: 交渉の局面(情報分析、心理戦、そして「決断」の体験)
- 6. モノポリーの限界

2013年度 第1回 関西支部例会(研究発表会)プログラム

国際ビジネスコミュニケーション学会 (JBCA) 関西支部

〒547-0021 大阪市平野区喜連東 1-4-12 常磐会学園大学 Alex M. Hayashi 研究室内 TEL: 06-4302-8880 FAX: 06-4302-8884

Website: http://www.jbca.gr.jp/kansai Email: alex23go3500@yahoo.co.jp